

WS2-1 ワークショップ(2)

一般米語全 13 母音の指導法: How to teach all 13 vowels of General American English to Japanese people

野北 明嗣 (国士舘大学)
anogita@kokushikan.ac.jp

1. はじめに

一般に、日本語には母音が 5 個しかなく、米英語 (以下、英語) にはその倍以上あるから、英語の母音は難しいという「通説」がある。しかしそれは大きな誤解である。なぜなら、音韻学者にとっては常識であるように、音素の数は、数え方次第でいくらでも変わるからである。そこで、本稿では以下の 2 点にフォーカスを当てる。

- 英語の母音は、決して日本語のア、イ、ウ、エ、オのような短い単母音が 13 個あるわけではなく、長さや二重母音性が区別のカギになる。
- 日本語の五十音表のように整頓された表で、英語の母音の全体像を把握する。

2. 英語の母音の音声的特徴に関する盲点

英語母語話者は、英語の母音を「長さ」と「二重母音性」によって聞き分ける。この英語音声学では常識のような事実が、日本の英語教育でほとんど応用されていないのは残念である。まず英語の母音には *intrinsic duration* があり、Hillenbrand et al. (2000)によれば、各母音の平均持続時間は、図 1 に示されているとおり長いものと短いものがある。

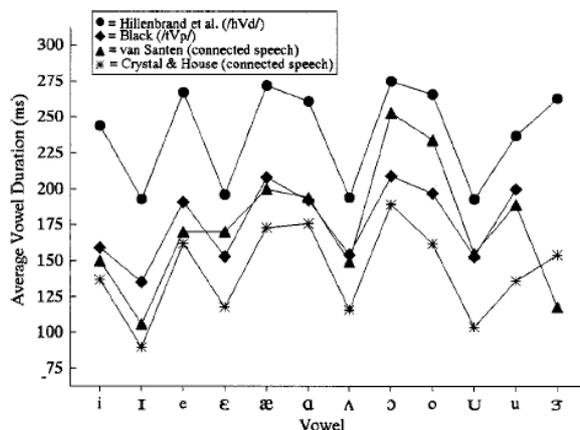


図 1: 米英語の母音の平均持続時間 (Hillenbrand et al., 2000, 3014)

図を見ればわかるとおり、例えば [a] (*hot* の母音) は長い母音で、[A] (*hut* の母音) は短い母音である。Hillenbrand et al. (2000)によれば、[A]を人工的に長くしたものを英語母語話者に聞かせると、[a]と聞き間違えられる傾向があり、逆に[a]を短くしたものは[A]と知覚される傾向があるという。つまり、長さが母音の区別に重要な役割を果たしているのである。

さらに、日本語のア、イ、ウ、エ、オが文字通り単母音であるのと違って、英語でいわゆる「単母音」と言われているものの多くは、実際には二重母音がかっている。多くの北米の方言で、例えば *bid*, *bed*, *bad*, *bud*, *good* はそれぞれ [bɪəd], [bɛəd], [bæəd], [bʌəd], [gʊəd] の

ように、二重母音的に発音される (Andersen, 1972)。

これらを踏まえた上で、Nogita and Lin (2016)によれば、日本語の1拍及び2拍の単母音や母音連続をカナダ英語母語話者に聞いてもらい、英語のどの母音に聞こえるかという知覚実験を行ったところ、日本語の母音を組み合わせれば、英語の全13母音に相当する音を作ることができることがわかった(後述の表1参照)。つまり日本人にとって英語の全ての母音を発音し分けることは、決して難しいことではないのである。(ただし native-like な発音は難しい。) 子音のLやTH等と違い、母語に既に対応する音韻カテゴリー(音声的には全く同じとは限らない)が存在することは、学習者の負担を大きく軽減する。

3. 米英語の母音一覧表を把握する

日本語の諸方言同様、英語も母音音素の数には方言差があるが、多くの北米英語の方言では13個であり(Labov, Ash, & Boberg, 2006)、ここでもそれを採用する。ここで、各言語の音の「目録」という概念を理解する必要がある。例えば日本語では、母語話者、非母語話者を問わず、学習の初期段階で五十音表を学び、文字と同時に音の体系を覚える。そして大雑把に言えば、日本語は五十音表の音しか使わないので、五十音表の音さえ覚えてしまえば、理論上は全ての日本語の単語を発音できるわけである。英語も同様で、母音に関して言えば、表1に示してある13個の母音しか使わない。

ところで、日本語の漢字の読みを表記するのには、ひらがな、カタカナ、ローマ字、発音記号等、いくつかの表記方法がある。同様に、英語の発音を表記する方法も複数ある。まず英和辞典や教科書でお馴染みの発音記号。他には、日本人にはあまり馴染みがないかもしれないが、英語圏で使われる *phonetic spelling* (読み通りのつづり)がある。これにも大きく分けて2種類あり、例えば *Germany* を *jur-muh-nee* (c.f., *Scholastic Pocket Dictionary*) のように補助記号を使わず表記するものと、例えば *plane* と *plan* をそれぞれ *plān*, *plān* (c.f., *The American Heritage Dictionary*) のように補助記号を使って表記するものがある。この機会に多くの日本人に *phonetic spelling* を知ってほしい。表1では、極力1音素1文字に近づけるため補助記号を使った *phonetic spelling* を採用し、それに対応するジーニアス英和辞典の発音記号、さらに前述の Nogita and Lin (2016)の知覚実験による日本語の対応する音を加えた。

表 1: 北米英語 13 母音一覧表

Long/Alphabet vowels					
Phonetic spelling ^a	ā	ē	ī	ō	ōō
対応する発音記号 ^b	[eɪ]	[i:, i]	[aɪ]	[oo]	[u:, u]
対応する日本語音 ^c	エイ	イー	アイ	オウ	ウー
単語例	<i>mate</i>	<i>mete</i>	<i>site</i>	<i>note</i>	<i>root</i>
Short/Relative vowels					
Phonetic spelling	ă	ĕ	ĭ	ŏ	ŭ
対応する発音記号	[æ]	[ɛ]	[ɪ]	[ɑ:]	[ʌ]

対応する日本語音	エア	エー	エ	アー	ア
単語例	<i>mat</i>	<i>met</i>	<i>sit</i>	<i>not</i>	<i>cut</i>
Vowel digraphs					
Phonetic spelling	oi	ou	oo		
対応する発音記号	[ɔi]	[aʊ]	[ʊ]		
対応する日本語音	オイ	アオ	ウ		
単語例	<i>coin</i>	<i>loud</i>	<i>book</i>		

^a The American Heritage Dictionary の発音表記。 ^b ジーニアス英和辞典の発音記号。 ^c Nogita and Lin (2016)の知覚実験による日本語の対応する母音。

これらの母音を全て覚え、子音一覧表も同様に覚えれば、理論上は全ての英単語を発音できるわけである。ただし、日本語の五十音表を覚えるのにはそれなりの時間と労力を要するように、英語の音の一覧表を覚えるのにも同等の時間と労力が必要である。

4. 3 種類の母音 (Long/Alphabet Vowels, Short/Relative Vowels, Vowel Digraphs)

英語のアルファベットは A から Z まで 26 文字あるが、母音字は A, E, I, O, U の 5 文字である。そして 5 文字それぞれに 2 通りの読み方、計 10 通りの読み方がある。これはちょうど日本語の漢字に、音読みと訓読みの 2 通りの読み方があるのに似ている。つまり、13 母音のうちの 10 個は A, E, I, O, U の文字で書き表せる。残りの 3 つは、例えば子音字の SH や CH 等 2 文字で 1 音を表す「二重字(digraph)」があるが、これの母音版、OI, OU, OO で表す。

4.1. Long 読み/Alphabet 読み

A, E, I, O, U の 2 通りの読み方のうちの 1 つ目は、Long 読み (c.f., Labov et al., 2006) とか Alphabet 読み (c.f., Gilbert, 2012) と呼ばれる。Long/Alphabet 読みは、A, E, I, O, U をアルファベット名で、つまり順にエイ、イー、アイ、オウ、ユーと読む読み方である (例、*mate*, *mete*, *site*, *note*, *cute*)。Long/Alphabet 読みの A, E, I, O, U は、ā, ē, ī, ō, ū とマクロンを付けて表記されることもあり、本稿でもこれを採用する。ただし、ū はユー(/ju:/)と読み、Y の子音が入っている。そこで、本稿では ū の表記は避け、The American Heritage Dictionary に倣って、母音ウー(/u:/)だけを表す oo (*food* や *zoo* の母音) の表記を採用する。

4.2. Short 読み/Relative 読み

A, E, I, O, U のもう一つの読み方は、Short 読み (c.f., Labov et al., 2006) とか Relative 読み (c.f., Gilbert, 2012) と呼ばれる。日本では「フォニックス読み」と呼ぶ人もいる。Short/Relative 読みは、アルファベット名とは全く別な読み方をし、表 1 に書いた通り、それぞれ概ね日本語音のエア、エー、エ、アー、アに対応する (例、*mat*, *met*, *sit*, *not*, *cut*)。Short/Relative 読みの A, E, I, O, U は、それぞれ ä, ě, ĭ, ö, ů とブリーブをつけて表記されることもある。本稿でもこれを採用する。

ところで、ä, ö, ů の 3 つは、日本の英語教育では、しばしば全て日本語のアに対応すると

教えられ、ア系母音などと呼ばれたりするが、これはとんでもない誤解である。前述の Nogita and Lin (2016)の知覚実験で表されるとおり、*ǎ*, *ö*, *ü* はそれぞれ日本語音のエア、アー、アという3つの音韻カテゴリーに対応する。図2にこれをまとめる。



図 2: いわゆるア系母音の実際の対応

4.3. Vowel Digraphs (二重字)

残りの3つは、しばしば *oi*, *ou*, *oo* (又は *oy*, *ow*, *oo*) で表され、順に *coin*, *out*, *good* の母音である (c.f., *The American Heritage Dictionary*)。oo に関しては、oo と区別するため、本稿では *The American Heritage Dictionary* に倣い、前者にブリーブ、後者にマクロンをつける。

Nogita and Lin (2016)の知覚実験では、oo は日本語音ウに対応したが、実際は oo と oo は音質がかなり違うため、経験的には、「口を丸める oo に対し、oo はあまり口を丸めないウ」又は「oo は口を丸くしてア」という説明が効果的だが、今後科学的な実証が必要である。

5. 具体例

最後に、実践でこれらの母音が英単語でどのように使われているかを見ていく。英単語が日本語の語彙に入って、カタカナ発音になることは有名だが、逆に日本語の単語が英語の入るとどうなるかは、あまり注目を浴びていない。そこでここでは、日本語語源の英単語の読み方を見してみる。ハイフンは音節の分かれ目、太字は強勢を示す。

kē – yō – tō(dō) 京都	tō – kē – ō / tōk – yō 東京	hōn – dū 本田
toy – yō – tū(dū) トヨタ	nē – sōn 日産	tō – shē – bū 東芝
sō – kē 日本酒	kū – rō – tē(dē) 空手	mē – sō – soop 味噌汁
kē – rē – ō – kē カラオケ	soo – shē お寿司	soo – nō – mē 津波

参考文献

- Andersen, H. (1972). Diphthongization. *Language*, 11-50.
- Gilbert, J. B. (2012). *Clear Speech Teacher's Resource and Assessment Book: Pronunciation and Listening Comprehension in North American English*. Cambridge University Press.
- Hillenbrand, J. M., Clark, M. J., & Houde, R. A. (2000). Some effects of duration on vowel recognition. *The Journal of the Acoustical Society of America*, 108(6), 3013-3022.
- Labov, W., Ash, S. & Boberg, C. (2006). *The Atlas of North American English*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Nogita, A. & Lin, H. (2016, May). *Establishing Counterparts of Japanese and English Vowels*. presented at SFU Pronunciation Mini-Conference at Simon Fraser University, BC.